

平成30年度 第2回羽島市総合教育会議 会議録

日 時	平成31年1月28日（月） 午後1時30分から午後3時30分
場 所	本庁舎4階 委員会室
出席者	<p>(出席委員)</p> <p>今井田真千子委員 黒田淳委員 今枝甫委員 向井ゆかり委員 伏屋敬介教育長 松井市長</p> <p>(事務局職員)</p> <p>古川理事兼企画部長 北垣企画部市民協働担当部長 山内教育委員会事務局長 稲葉教育総務課長 横山学校教育課長 竹内給食センター所長 酒井生涯学習課長 諏訪図書館長 箕浦スポーツ推進課長 田中総合政策課長 伊藤同課主幹 坂倉同 課係長 吉田同課主任</p>
内容	<p><u>1. 開会</u> (会議の概要説明、資料確認)</p> <p><u>2. 松井市長挨拶</u></p> <p>大変寒い中、本日はご参加を賜り深く感謝申し上げます。</p> <p>教育再生首長会議が記述式の一次試験の要望を3年前に強くお願いし、文部科学省に採択いただいたところである。</p> <p>羽島市においては教育長とタッグを組み、様々なる改善をした。平成30年度で一安心したことが、就任以降から2つある。</p> <p>1点目、これは国会論議もされたが、PTA会費の学校修繕等への流用である。PTA会費を学校の修繕費に使うようなことはあってはならない。学校修繕費、学校の営繕は一般行政の義務である。そこで、複数の年度をかけて全額市費で払う予算化を行った。</p> <p>2点目、地域の役員が地域住民の方から集金している学校関連の会費について、ようやく撤廃する方向になった。</p> <p>教育内容、お子さんの指導について、私がどのようにすべきかは絶対言っはいけないことである。</p> <p>その一方で、学校施設の関係については、方針は定める。そして限られた財源の中で優先してやっていく学校と、少し後発になる学校が仮に生じた場合には、学校長会議や教育委員会主催会議で、学校長の意見を取りまとめリーズナブルな方針を採る、というのが羽島市方針である。そこに市長は介在しない。</p> <p>あまりに首長の権限を強化したかのような教育制度の改正は改悪につながる。首長の交代で教育方針が変わるようなことはあってはならないと思う。一貫した流れの中で、理念に基づく小学校、中学校、幼児教育を含めて連環をした形での健全なる子弟の養育が必要である。</p> <p>そのような中、教育長に以前からお願いしていた羽島の教育のめざす姿を今般改正いただいたので、どうか忌憚のないご意見を賜りますようお願いを申し上げ、ご挨拶</p>

とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

### 3. 議事

#### 平成31年度教育の基本方針について

山内教育委員会事務局長が、平成31年度羽島市の教育のめざす姿（案）の基本方向、重点項目、「学校教育」「生涯学習・文化振興」「スポーツ推進」の観点それぞれの重点項目、課題について説明した。

#### 意見交換

##### (委員)

P T Aのお金を修繕に使ってはいけないとのことだが、実際にどこまでP T Aの予算として支出可能か分からないため、そのあたりをもう少しはっきりしていただくと分かりやすい会計になると考える。

##### (松井市長)

簡単に言いますと学校施設のハード部門は100%、市町村の一般行政がやらなければいけない。そして、教材として使うような書籍等についても、教材購入費として一般行政の支出項目である。

その一方で、子どもの健全な育成に資するような、例えば、学校図書館に何らかの継続的な副教材に類するものを寄付することは、一定のコンセンサスでハードルを越えられると考える。

あまり経費のかからないような樹木の定期的な伐採や環境整備、あるいは何かのペンキ塗り等、親御さんのアダプトプログラムの中で、ボランティア的にやっていただける程度で留めていただくのが本来ではないかと考える。

##### (委員)

子どもの成長は本当に早く、過去形になってしまうため、学校の施設内でのこと、環境のことに関しては校長先生や、長年勤務されている先生方に聞いていただければと思う。

P T A会費について、保護者としては子どもが一番であり、国や市からお金がなかなか無い中でどうすべきか難しいが、教育現場の環境を整えていただくのが一番良いと思う。

普通教室のエアコン設置により、子どもたちの成績が少しアップしたという話を聞いた。子ども達に良い環境を作ることで、先生達の負担も減ると思う。

##### (伏屋教育長)

普通教室のエアコンについてはかなり優先度を入れ替えて対応した。

コミュニティ・スクールを実施していく中で、学校運営協議会等々との絡みの中で、本来のP T Aの役割は何か、何をすべきところなのか、一度議論していただく時期に

内容

来ていると考えている。

(委員)

近い将来、society5.0 と呼ばれる、人工知能でロボットが勝手にやってくれるような時代が来る、という視点も教育に取り入れてほしい。

教育というものは不易と流行があり、知徳体という、三位一体型で子どもの成長、人格形成を図っていくのは昔から変わらない。しかし、流行の部分は社会の変化が非常に激しいため、どういったバランスを取ってやっていくかが今後の大きな課題である。

最近是非認知能力という、人と協力する、思いやりといった部分をどう伸ばしていくかが重要である。教える現場の先生方もそういった認識や視点を持ち、児童の育成や伸ばしていくポイントを考える必要がある。

人生100年時代と最近言われるが、やりがいや達成感、携わっている中に楽しむことが無いと続いていかないと思う。

(松井市長)

おそらく国内で言えば、オリンピックに近づくにつれどんどん技術革新していく。海外では、例えば国営企業を発展させるような政治、経済のところは、その国営企業を使い他国を支配する。こういう両局面の中で、人工知能などのコミュニケーションツールがあまりに発展すると、企業理念、人間の道徳観、あるいは協調してやっていくという心と心のつながりの部分の制約が規制の枠を超え、人間の知能以上に恐ろしい事柄が起きるおそれがある。そういうあたりに向けての、心の部分を正確にケアできる一体的な、つなぐ教育制度を日本は確立する必要があると考える。

(委員)

先生方には、これはやらなければいけない、という強迫観念があるため、仕事を振ることや分担がなかなかできないと思う。

先生全員が早朝の出勤、深夜の帰宅が当たり前、という状態をどこかで改善しないと、負担ばかりになってしまうと思う。

(委員)

先生方はみんなまじめであり、ここまでやらないと満足できないという性格やタイプのため、時間内に仕事を全部完璧にできるように求めるのは難しい気がする。先生方は子ども達のためにすごくがんばったという満足感や達成感があれば、遅い時間の帰宅であっても、その部分はストレスになっていないと思う。

子どもの異変や学習力の低下に関して、スクールカウンセラーのような形で確認し、相談できる人を学校に整備できると良いと思う。

内容

(伏屋教育長)

羽島市としてはさまざまな支援員を投入しており、また来年度に向けても新たな支援員を配置する方向で進めている。

(委員)

子ども達一人一人に担当の方がいて、先生に代わって個人懇談ができるような形があると良いと思う。

(松井市長)

スクールソーシャルワーカーは来年度、増員の予定がある。

教育事務職の先生方の雑務で一番大きいのは書類づくりである。このあたりの抜本的な是正に向け、雑務と言われる書類づくり、往復文書、あるいは予算整理について、教職員ではなく行政職を人員配置することを現在進めている。

(委員)

課題の中で、すぐ解決できる課題、検討し期限を区切って解決できる課題、検討をじっくり討議しないとイケない課題がある。発想を思い切って変えて、登下校は地域に任せ、先生方の交差点等でのあいさつ運動や誘導はやめて、校内のあいさつに力を入れれば良いと思う。先ほど言われたように、事務の人を増やし行政で対応いただけるという話であれば随分楽になると考える。

また、週案や指導案は教科書に変更がなければ、毎回新しく作成する必要はないと考える。予習・復習・先生方の教材研究も、もう少し効率的な形ができると思う。

(伏屋教育長)

ただいま、教育の基本的なあたりについてご議論いただいた。

先ほど教育委員会事務局長から説明した、羽島市の教育のめざす姿の平成31年度の案について、これは教育振興基本計画、さらに上位の教育大綱を踏まえ作成している。具体的には、2ページ、3ページ、4ページの一番下の枠に課題を記載しており、来年度取り組んでいかなければならない具体的な内容を示している。この部分についてご質問、ご意見を頂戴したい。

(委員)

2ページ目に、前年度には記載のない「食育の推進」という項目が出てくるが、追加した理由は。

(横山学校教育課長)

点検評価報告書の中で、食育部分の評価が低かったことを懸念しており、しっかり位置付け、意識的に指導していく必要があるということで新たに記載した。

内容

(委員)

3 ページ、「不二羽島文化センターの大規模改修工事及び長期休館に向けての対応」と記載があるが、来年度は既に予定されているのか。

(酒井生涯学習課長)

来年度に工事に入るわけではない。再来年度が大きな工事になってくるため、それに向け早めに周知したい、来年度計画をしっかりとしていきたいということである。

(委員)

何ヶ月くらい休館するのか。

(松井市長)

後ほど詳しく説明するが、最長9ヶ月である。

(委員)

小学生になってスポーツに一生懸命取り組んでいると、自分のスポーツ以外に興味を持つことは難しい面がある。親御さんが子ども達の始めるスポーツを考えるのは、小学1年生まであたりの時期であるため、その年代の子どもがいる保護者に、例えばトップアスリート事業のテコンドー等をおすすめするのが良いと思う。

部活にないスポーツを続けるのは難しい。中学や高校に部活のようなものがあると本当に広まっていくと思う。

(委員)

「幼児教育の推進」と資料にあるが、乳児期からの教育も大切である。

朝ごはんを子どもが食べるようにするには、生活態度や生活のリズムなどを改善する必要があると考える。

(委員)

課題の部分で、特に小中一貫教育の推進やコミュニティ・スクールの充実は、平成29年度から始まり、着手してから1年で随分前進したということである。そのため、課題ではなく、今後の取り組みの重点ということである。

ずっと継続して取り組むべき課題と既に始まっている喫緊の課題は重点として、何を優先的にやっていくか対応可能だと思う。

(委員)

実際にコミュニティ・スクール等をやる際に色々と矛盾が生じるため、現在の子供会等の組織について、関わる人の負担が軽く、それぞれが分担できるようにすべきだと思う。

内容

(松井市長)

羽島市の教育のめざす姿（案）の中で、今回新たに抽出をした課題等についてお話しさせていただきます。

2 ページ目、委員からご指摘のあった乳児教育の推進の部分は字句調整をする。

私になってから、健康づくりの関係は保健センター部門と教育委員会部門が連携し施策の構築にあたっている。保健センターでは、減塩食を中心とした全国最先端の長野県の食生活改善を見本にして進めている。そのような方向性で一貫して教育行政、福祉行政、子育て行政を連環させたいと考えている。

委員の意見のとおり、課題の中でもいわゆる短期的な課題として問題解決を図るものと、中長期的なものに分類されている。

コミュニティ・スクールについては次の段階として、1つの中学校に1つの小学校がある、という部分を優先させて課題の抽出を図っていくべきである。

スクールソーシャルワーカーについては先ほど來說明している関係で実施する。情報教育については、小学校から既に問題的な行動が露見しているため、情報モラルという形の教育、学習方法を徹底的に実施するため、専門人材の活用を図っていききたいと考えている。

プールのあり方については、小学校で泳げない子どもは作らない、という方向性で一貫している。しかし、現在の地方自治体の財政力では、小中学校すべての学校施設としてのプールの存続は不可能か、極めて厳しい状況である。そのような状況の中、愛知県の先進市の1つで、いわゆる民間のプールを運営しているものの活用を図る動きが出てきている。そのあたりに向け今後、本格的な検討を長期的に行う時期である。

老朽化している南部学校給食センターのあり方について、施設の老朽化、あるいは厨房機器の老朽化等に多額の費用が計上されるため、中期的な形でのベンチマークを策定しなければならないと考えている。

3 ページ目、不二竹鼻町屋ギャラリーの運営が非常に悪化をしている。現在は、いわゆる評価を下げた環境改善に向けて対応しているが、ことを急ぐつもりはない。一度したミスを再度した場合には、他の美術館から美術品を借りられないという状況が発生する。さらに、美術品の保管等について非常に大きなリスクを持って事業を進めてしまった。こういうあたりを正確な形で検証しながら、健全な再オープンに向けてある程度の期間がかかるのはやむを得ない、ということで進める。

不二羽島文化センターについては、教育委員会としての計画的なリニューアル関係が実はプラン化されていたが、実体的に予算を組む際先送りされ、私が市長になるまで全くリニューアル工事をやらなかった。そこで、厳しい財政状況の中、音響施設・音響設備の修繕、吊り物の改修を実施した。いよいよ照明施設のLED化を行う。LED化する際、文化センターのような大きな公共施設は天井の耐震化を一緒にすべき、との通達がある。あわせて火災報知機の正確な運用更新を図る場合、最大9ヶ月の休みが発生する。実は、照明設備だけで3億5千万円以上、その他を含めると5億に近くなる。このあたりは今後、正確にアナウンスする必要がある。

イタセンパラについては、国の天然記念物のため、既に先進的に取り組んでいる正

内容

内容	<p>木を中心としたサポーター制度、お子さんを学習の対象とするあたりに向け取り組んでいく。</p> <p>羽島市では、粗暴的な問題行動の低年齢化、知能犯的なものが中高生で露見化、引きこもりの再増加、不登校児童生徒の増加等、非常に懸念する事案が発生している。それから悪いことをしても、悪いことだと認識しない子どもがいる。こういうあたりに向けて、子供会から全てをもう一度見直す必要がある。そして、子どもの健全育成に親が何をできるかのパーツを明確に示し、社会教育の段階で実践をしていく。</p> <p>青少年問題委員の関係については、本当に就任いただくべき方にやっていただく必要がある。現在の活動は青少年問題や健全育成にベストな状態ではないと考えるため、本質的に青少年問題を考えていただく健全育成活動に転化しないと羽島市は良くならない。</p> <p>堀津町の堤外にある陸上グラウンドは整備後、一度もリニューアルしていないが、担当課の努力があり、トラックの環境の補助財源を受けられるため、整備をしていきたい。</p> <p>ホストタウンの関係で、私の発案でスリランカに陸上コーチを派遣したところ、ヨーロッパからシンガポール経由で同様のコーチングスタッフがスリランカに入っていた。そこで、次の段階を考えなければならない。羽島市に、日本にスリランカの優秀な人材に来ていただき、さまざまな学校や高等教育、あるいは労働力として日本で活躍していただきたいという理念のもと、取り組んでいきたい。</p> <p>スポーツ少年団のあり方について抜本的にメスを入れないといけない。そして、正確なルールの中で、1週間に何日かは通い、他の日は塾に通うことも可能である、という形のコースを作っていただくことが必要だと考える。</p> <p><u>(田中総合政策課長)</u></p> <p>長時間に渡り熱心にご議論いただきありがとうございます。本日皆様方からいただいた貴重なご意見を踏まえ、方針を固めていきたいと思えます。</p> <p>それではこれを持ちまして、平成30年度第2回の総合教育会議を閉会させていただきます。</p> <p>(閉会 午後3時30分)</p>
----	--